

interview

失敗したから 今がある 私の失敗談

社会で活躍する人々には、多かれ少なかれ失敗の経験はあるものです。失敗とどう向き合い、なぜその後も挑戦を続けられたのでしょうか。3名の社会人に失敗からの気づきを語っていただきました。

も

う四半世紀以上も前のこと。
私の人生の最大の失敗とも
言えるのが、就活で犯した
ミスでした。

子どものころからラジオが好きだったのですが、大学時代に地方のラジオ局でパーソナリティを務めるアルバイトをしていました。バイトとはいえ、自分の声がラジオから流れる経験は病み付きになる魅力がありました。それが、職業としてアナウンサーを目指すきっかけとなりました。

出身地である北海道でAMラジオ放送を行っている民間放送局は2社だけでしたので、その両方のアナウンサー職に応募。当時A社はアナウンサー職と一般職の両方にエントリーが可能だったの

一度の失敗で夢は絶たれた。

それも人生の新たなスタート地点だった

遊び心のナレーター
朗読YouTuber
いぬい ゆうたさん

失敗できる贅沢を味わった
「文学フリマ」での本作り



「文学フリマ」で自作の小説を販売することになったいぬいさん。本作りは初めてだったため、フォーマットの間違いなどを、印刷会社の方に根気強く指摘してもらいながら、何度もやり取りを重ねた。出版や製本に詳しい知人からは「言ってくればやってあげたのに」と言われたが、人を頼って成功しても自分の経験値にならないと考え、敢えて失敗して印刷について学んでいく道を選択。「失敗できる贅沢を存分に味わいました」

で両方に応募し、B社はどちらか一方しか受けられなかったためアナウンサー職のみエントリーしました。自信はありませんでした。思いのほか就活は順調に進み、両社ともアナウンサー職の1次試験を通過し、A社の一般職は早々に内定を頂くことができました。

B社は2次試験も通過し最終面接の案内の電話を頂いたとき、先方の担当者から「もし他局の内定を受けていて、そちらに就職される可能性が濃厚であれば、早めにご辞退も考えてほしい」と言われたのです。今ならもっとうまく立ち回れたかもしれません。学生だった自分はA社の一般職の内定を受けていたこともあり、気づくと丁寧に辞退していました。アナウンサーになる夢はA社に賭けるしかなかった。

ところがある日、A社の人事担当者からの電話に出ると思いも寄らぬ言葉が。「今日、2次試験でしたがどうしまし

たか？」

信じられないことに、私は2次試験の日程を翌日だと思っていたのです。当時は就活と代表を務めていた大学のサークル活動で多忙を極めていたとはいえ、考えられない痛恨のミスです。そんな私に、A社は、内定を出している一般職への入社意思を確認してくれ、即答で入社することを伝えました。そして私のアナウンサーになる夢は絶たれたのです。

一度失敗しても終わりではない。
次があることを部下にも伝授

就活の失敗を通して、自己管理の至



らなさを痛感しました。凡ミスで夢を失ったことで落ち込み、しばらく自室にひきこもっていました。自分の性格上、自力ではどうにもできないときは、時が過ぎるのを待つしかない、時間だけが解決できることをなんとなく自覚しているうちに、少しずつ気持ちが回復していききました。何より一般職としてA社に入社できる。こんなミスをした私を受け入れ、チャンスを与えてくれたA社の懐の深さがあったからです。

一度失敗しても終わりではないと思えたのも会社が救ってくれたおかげです。それまでは就活がゴールかと思っていました。それが、就活は社会人人生のスタートでしかなかった。それは中堅以上でも同じで、ある仕事で「ゴールだ」と思ったことでも、次の仕事へのスタートだったという事に気づく。その繰り返しです。部下をもつようになってからは、部下が失敗してもそれで終わりではないこと、次のチャンスがあることを必ず伝えるようにしています。自分の失敗の経験を通して、他人に対しても早急に判断せず長い目で優しく見守ろうと、人の見方も変わりました。

30代のディレクター職時代に、何をやってもうまくいかず落ち込んだときもありました。でも40代になって気づいたのは、当時の自分になかったのは能力ではなく経験だということ。時間が経てば経験が増え、周りの環境も変わってできるようになることも多々ある。失敗は何もかもが自分のせいではないのです。

世の中の環境が変わって「YouTube」という誰でも発信できるツールができた。そのおかげで私は今、会社員の顔とは別に朗読「YouTube」として「自分の声で作ったコンテンツをメディアで配信する」という、就活では失敗して一度は諦めた夢を叶えることができています。

失敗すると必ずそこから新たな学びを得られます。ゲームでは成功すると経験値が上がっていきますが、人生は逆で、失敗した方が経験値が上がってレベルアップできると思うのです。だから人生を「自分育成ゲーム」だと思って、「失敗した方が成長できる。失敗は贅沢だ」というモチベーションでいるんなことにチャレンジした方が得ですよ。高校生は学校というセーフティネットの枠にいられる間に、失敗する贅沢をたくさんしておけるといいですね。

いぬい・ゆうた ●北海道在住。朗読YouTubeチャンネル「あめつちコトノハ堂」で活動。メディアプラットフォームnoteで短編小説やエッセイも配信。本業は北海道内の民間放送企業の会社員。テレビやラジオの現場で記者・ニュースデスク、ディレクターなどの制作現場や営業・編成などを幅広く経験。

